

会議議事録

会議名	平成29年度 第2回教育課程編成委員会
開催日時	平成30年1月16日(火) 14:00~15:30
会場	中央動物専門学校 1915教室
参加者	<p>委員 坂本 敏、佐藤 洋子、渡来 純如、小澤 琢爾、笹井 利浩、 高橋 三行、齋藤 栄輝、藤川 進、久保 純、宮澤 厚</p> <p>陪席者 関野 格至、齋藤 利章、天野 雅弘、原 太一</p> <p style="text-align: right;">以上 14名</p>
会議録	<p>1. 開会挨拶 座長の坂本敏校長から開会の挨拶を行い、教育課程編成委員会が開会した。</p> <p>2. 職業実践専門課程 認定状況説明 坂本座長から「職業実践専門課程」の認定状況について説明があった。 ・専門職大学創設法の成立等について（配布資料参照）</p> <p>3. 運営運営計画（案）について 佐藤洋子委員から平成30年度運営計画（案）の説明があった。</p> <p>4. 具体的検討 各学科の教育運営に対して必要な検討を行い、今後更に改善を要する案件や意見が挙げられた。主なものは次の通り。</p> <p>(1) 愛犬美容関連科（愛犬美容科・愛犬美容研究科） ・一般知識、ビジネスマナーについて、トリミングの現場で犬に怪我をさせてしまったことの重大さを認識しておらず、謝罪の言葉がすぐに自然に出てこないケースも散見される。本校では、学生自身が委縮してしまう可能性もあり、オーナー様から犬を預かっている送迎担当者が謝罪を代行しているが、企業では本人が謝罪しないと伝わらない。誰かがやってくれと捉えられては困る。技術よりも接客態度が大切であり、お客様もそれを重要視している。これまで以上にビジネスマナーの指導強化を望む。 ⇒本校の店舗実習室で、学生が直接オーナー様から犬をお預かりし、オーダーを伺い、お返しするという、接客の一連の流れを体験させて</p>

いるが、店舗実習室をより存分に活用できる機会を設けられるよう検討していきたい。

- ・怪我は絶対に避けきれないが、飼い主は家族の一員として犬をトリミングに出しており、その際、飼い主の気持ちに寄り添った対応の必要性を指導してほしい。また、学生には謝罪だけではなく、何故その怪我が起きたのか、内容を理解させ、再発防止のためにも事故を分析・原因究明をし、それらの情報を教職員間でも共有していくべき。店舗の現場では「クレーム報告書」を作成し、店長・チーフの見解と分析を記述し、再発防止に努めている。

⇒今後、学内においても、事故の当事者（担当教員と学生）だけに止めず、事故の内容・原因など再発防止も含め、全指導教員と学生にも可能な限り情報共有の伝達を図る等、指導方法の検討を行う。

- ・異変を感じた時にすぐに、些細なことでも報告させることを学校側が厳しく教育すべき。また学生を委縮させないよう配慮し、どのような報告でも、寛容に受ける体制をつくる。

⇒飼育経験のない学生については、本校では、担当犬制度、パートナー制度で、学内の中で疑似的な飼い主の体験をさせている。それらを更に活用していきたい。

(2) 動物看護関連科（動物看護科・動物看護研究科）

- ・高度医療、専門性の高い動物病院での校外研修について、大学病院では看護師が不足していることを踏まえ、本校学生も、積極的に高度医療施設へ校外研修として行かせ、高度医療現場の見学を提案する。

⇒本校では大学病院とのバイパスが多くない。研修先、就職先としても実績はあまりない。大学病院は就労的には安定しているため、ご紹介いただければ是非お願いしたい。

- ・昨今、動物病院では、歯科のニーズが高く重要視している。スケーラーの取扱い方等、歯科の授業も取り入れてほしい。また、人間の歯科衛生士育成の教育機関のカリキュラムを参照し、動物への導入も検討してほしい。

⇒本校では、去勢避妊手術を行っている外科実習の合間に、スケーリング実習も取り入れてはいるが、3年生がメインであるため、2年生（卒業学年）にも検討していきたい。

(3) 動物共生関連科（動物共生研究科・動物共生総合科）

- ・動物介在活動の実習先施設の一つとして、コミュニケーション能力の向上については、お役に立てる部分で今後も協力していきたい。

- ・勉強の方法が分からない学生がいる。創造性の育成、考える力を養っていくためのヒントを提供できるような授業の在り方を切望する。

⇒アクティブラーニングの授業導入も含め、人間力向上の教育方法の改善を検討する。

(4) 各学科共通

・中国、韓国の客層が増加しているため、会話までは求めないが、挨拶程度はビジネスマナーとして学んでほしい。特別授業等の検討を。

⇒統一認定機構推奨の高位平準化コアカリキュラム導入以前は、英会話の授業も取り入れていた。今後は特別授業等でも導入できるよう検討する。

⇒現在の「企業研究」の科目の中で、異業種の企業の授業も検討していきたい。

・ペット業界だけではなく、物を販売する等、他業種から学ぶことがエッセンスの一つにもなり得る。業界と少し離れたところで会話が広がり、視線も変わり成果があった。自分達の分野を振り返ることにもなる異業種交流の場を設けてはどうか。

・スタッフの教育がきちんとされている店舗や動物病院は、改善提案を実施している。雇用する側は、改善提案ができる人材を求めている。

・都会では、住宅環境の点で飼育体験がない学生もいる。成犬の事だけでなく、子犬の飼育法なども教えてもらいたい。

⇒飼育については、本校では繁殖も行っており、成犬だけではなく、子犬の飼育も学内で体験している。更に有益な教育効果が得られるように検討する。

7. 次回委員会開催連絡

次回の委員会を、平成30年6月12日(火)14:00~16:00とする。
詳細は後日連絡。

8. 閉会

座長の坂本敏校長から閉会の挨拶があり、教育課程編成委員会が閉会した。

【配布資料】

- ・教育課程編成委員会平成29年度第1回会議議事録
- ・中央動物専門学校平成30年度運営計画(案)
- ・専門職大学関連資料

以上